令和8年度　自己評価計画書

石川県立小松瀬領特別支援学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	指導力の向上	①	【授業改善】 授業づくりのポイントを踏まえて、重度重複障害のある児童生徒の実態に応じた授業づくりを行う。	研究推進委員会	昨年度は、各教科等を合わせた指導において、教科（国語）の視点を踏まえた目標や指導内容の設定、評価の在り方に焦点をあてて授業を実践した。しかし、外部講師より指導・助言いただいた、学習環境設定やチームティーチングの機能化、教科（国語）の視点からの授業づくりのポイントを踏まえた授業改善に課題が残っており、引き続き実践を重ねる必要がある。	【成果指標】（教員） 重度重複障害のある児童生徒の実態を教員間で共有し、教科（国語）の視点からの授業づくりのポイントを踏まえた授業づくりを行う。	教科（国語）の視点からの授業づくりのポイントを踏まえた授業づくりを行うことができたと回答した教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、研究推進委員会を中心に対策等を検討する	教員の自己評価 ９月、１月
		②	【自立活動の指導の充実とICTの効果的活用】 児童生徒一人一人の自立活動の目標に照らし、ICT機器の活用場面や方法を考え、実践する。	自立活動推進委員会 ＧＩＧＡ校内研修推進委員会	昨年度は、「すぐに活用できる」「やってみよう」と思うことができる視点から研修会を行い、児童生徒が主体的に活動できるような環境やスイッチを工夫する教員の姿が多くみられるようになった。一方で、こうした実践を一層発展させ、児童生徒一人一人の自立活動の目標に照らしたICT機器の活用へとつなげていくことが課題となっている。	【成果指標】（教員） 児童生徒一人一人の自立活動の目標に照らし、ICT機器を授業や学校生活の中に取り入れて活用する。	児童生徒一人一人の自立活動の目標に照らし、ICT機器を活用する場面を授業や学校生活の中に取り入れたと回答した教職員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【Ｂ以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、自立活動推進委員会とＧＩＧＡ校内研修推進委員会で対策等を検討する。	教員の自己評価 ９月、１月
2	安全・安心な学校づくり	③	【医療的ケア体制の整備】 保護者・教員・学校看護師間の連携を強化するとともに、研修等を通して医療的ケアについての理解を深め、安全な医療的ケア体制の充実を図る。	医療的ケア委員会	昨年度は、教員間で児童生徒の体調や出欠状況について共有し、学部を越えた連携体制をとることで、医療的ケアのある児童生徒が安全に学校生活を過ごす体制整備の一助となった。しかし、特定の医療的ケアのある児童生徒の場合、体調を丁寧に把握するため、担当者を固定するケースが生じている。複数の教員の担当が可能な体制確保に努めるとともに、医療的ケアのある児童生徒数の増加に伴う医療的ケアの更なる理解と、教員間の更なる連携が求められている。	【努力指標】（教員） 研修や情報共有等を通して医療的ケアについての理解を深め、学校看護師等と連携しながら、安全な医療的ケア体制の充実に寄与する。	研修や情報共有等を通して医療的ケアについての理解を深め、学校看護師等と連携しながら、安全な医療的ケア体制の充実に努めたと回答した教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、医療的ケア委員会を中心に対策等を決定する	教員の自己評価 ９月、１月
		④	【防災対策の強化】 児童生徒の実態を踏まえた訓練や緊急対応シミュレーション等を行い、保護者へその様子を発信する。	指導課	昨年度は、実践的な避難訓練や緊急対応シミュレーションを行うとともに、災害における様々な状況に関する対策や対応について教職員同士で話し合い、理解を深め、共有した。今年度は昨年度同様、実践的な訓練等により、災害時の適切な対応につなげる取り組みを行い、その様子を保護者へ発信し、保護者との協働的な取り組みへと発展させたい。	【満足度指標】（保護者） 学校が行う訓練等の様子がわかり、その取り組みに満足する。	学校が行う訓練等の様子がわかり、その取り組みに満足していると回答した保護者の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、指導課を中心に対策等を決定する	保護者アンケートによる評価 ９月、１月
		⑤	【ヒヤリハットと事故予防】 ヒヤリハットや事故の報告を迅速に行い、原因と今後の対応を教員間で共有し、事故予防に努める。	指導課	昨年度は、ヒヤリハットの報告数は少なかったが、複数の事故が起こっている。実際はヒヤリハットとなる事例が挙げられていないことや、事故に対する対応の遅れにより、複数の事故発生となったと考えられる。教員の事故予防に対する意識を高め、ヒヤリハットや事故の報告を迅速に行うよう改善する必要がある。	【努力指標】（教員） ヒヤリハットや事故の報告を迅速に行い、原因と今後の対応を教員間で共有し、事故予防に努める。	ヒヤリハットや事故の報告を迅速に行うとともに、ヒヤリハットや事故の報告の原因と今後の対応を確認し、事故予防に努めたと回答した教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、指導課を中心に対策等を決定する	教員の自己評価 ９月、１月
3	業務の改善	⑥	【効率的・協働的な業務の推進】 各種会議の実施方法（回数の見直し、資料事前配付、参加者の厳選、資料の簡略化、進行の仕方等）を工夫する。	教頭	昨年度は、会議等のペーパーレス化を進めたことで、会議時間短縮と業務効率が上がったと感じた教員の割合が8割を超えた。特に職員会議のデジタル化による時間短縮について実感している教員が多く、その分を別の業務に充てる様子が見られた。今年度は、会議の時間短縮や効率化、適正化の観点から、種々の見直しを検討したい。	【成果指標】（教員） 各種会議の実施方法（回数の見直し、資料事前配付、参加者の厳選、資料の簡略化、進行の仕方等）の工夫により、会議の時間短縮や効率化、適正化する。	各種会議の実施方法（回数の見直し、資料事前配付、参加者の厳選、資料の簡略化、進行の仕方等）の工夫により、会議の時間短縮や効率化、適正化されたと回答した教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【Ｂ以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、運営委員会及び担当部署で、体制や取組等を検討する。	教員の自己評価 ９月、１月